



平成29年度

## 経営発達支援計画 事業評価報告書

東白川地区商工会広域連携協議会

- ・ 埴 町商工会
- ・ 棚倉町商工会
- ・ 矢祭町商工会
- ・ 鮫川村商工会

### 【評価基準】

- A：目標値が達成できており、効果が認められるもの、または期待できるもの  
B：目標値がおおむね達成できており、ある程度の効果が認められるもの、または期待できるもの  
C：目標値を大きく下回っており、取り組み方法の見直しが必要なもの  
D：計画が実行されておらず、評価ができないもの（計画そのものの見直しが必要なもの）



○事業評価報告書 もくじ

I. 地域の経済動向調査に関すること . . . P 1

II. 経営状況の分析に関すること . . . P 2

III. 事業計画策定支援に関すること . . . P 3

IV. 事業計画策定後の実施支援に関すること . . . P 5

V. 需要動向調査に関すること . . . P 6

VI. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること . . . P 8

地域経済の活性化に資する取り組み . . . P 1 0

経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取り組み . . . P 1 1

まとめ . . . P 1 2

事業評価委員会名簿 . . . P 1 2

## 実施内容と自己評価

(1) 経営発達支援事業の実施期間  
平成29年4月1日～平成30年3月31日

(2) 経営発達支援計画の実施内容

### I. 地域の経済動向調査に関すること

計画の概要

①各種統計調査資料の活用による経営実態の把握と事業所巡回時のヒアリングによる景況調査の実施

#### ●実施内容

- ・伴走型小規模事業者支援推進事業（補助事業）を活用して、景況感アンケート調査を地域内商工会の全会員（1,005件）に対して実施した。専門業者のアドバイスを得ながら経営指導員が調査票を作成し、回収・集計・調査報告書の作成は専門業者に委託して実施した。
- ・調査項目は①景気動向調査（売上高、採算状況、資金繰り、雇用人員に関するDI調査）、②経営課題について、③新たな事業への取り組みについて、④パソコン・ITの利活用状況について、⑤事業承継について、⑥商工会に対する意見等について。
- ・全国及び国の景況調査資料を活用し経済動向を把握し、東白川の調査結果と比較した。

#### ●自己評価

- ・補助事業を活用し専門業者と協力して実施したことで当初目標よりも調査件数を増やすことができた。
- ・調査票への記名をお願いしたことで、各調査項目について個別支援にも繋がるように取り組むことができた。
- ・調査で把握した事業者ごとの経営課題に対応する各種セミナーへの参加推進に活用できた。
- ・調査結果は、全国及び県が公表している景況調査資料と一緒に埴町商工会ホームページの「経営発達支援事業」のページで公表（他町村商工会HPにはリンクを作成）するとともに、事業者が事業計画の策定をする際に活かすことができる基礎データとして活用。（事業計画策定件数については、「Ⅲ. 事業計画策定支援に関すること」の項目参照）

（課題点）

- ・送付先1,005件に対する回収率が2割に満たなかったため、回収率向上を図る必要がある。

《景況調査件数(回収率 19.1%)》

	目標	実績
埴町	5	64
棚倉町	5	78
矢祭町	3	26
鮫川村	2	18
匿名		6
合計	15	192

## 評価委員による評価

I-①及び②

	A	B	C	D
評価	0人	4人	5人	0人

（評価委員コメント欄）

実績は目標を上回っているが、課題が残っているということでC評価が多かった。

アンケート調査の回収率が2割に満たないので、回収率が上がるように努力して、回収率を3割以上にしてほしい。

調査票の項目、分量などの考察が必要で、会員事業所へ事前周知(事業の概要・趣旨及び目的等を正確に伝えるべき)、商工会職員が直接回収する必要があるのではないかと。また目標値と実績値に乖離が大きく、目標値の見直しが必要である。

一般的に国と県の景況は確認できるが、地元地域の限った景況は確認できなかったため、参考資料として活用してほしい。

II. 経営状況の分析に関すること

計画の概要

- ①相談シートや経営分析システムを使った個別調査の実施
- ②「ネット de 記帳」の経営分析システム活用による経営状況の把握

●実施内容

①経営計画策定、創業、事業承継の各種セミナーのあとに実施した個別相談会の参加者に対して、専門家と経営指導員による経営状況の聞き取りを行った。また、巡回訪問等で相談を受けた会員事業者に対して、経営指導員による分析ツールを活用した経営状況の把握や専門家派遣事業を活用した経営分析を行った。さらには、持続化補助金等の補助事業申請時に事業計画を作成するに当たって経営状況の分析を行った。

《個別調査・分析件数》

	目標	実績
埴町	10	13
棚倉町	10	12
矢祭町	5	9
鮫川村	5	6
合計	30	40

②商工会経理システム「ネット de 記帳」を利用している事業者について、会計データを経営分析システムに取り込んで財務状況を把握するための資料を作成し、それに基づいてアドバイス等を行った。

《「ネット de 記帳」経営分析数》

	目標	実績
埴町	8	8
棚倉町	10	10
矢祭町	6	6
鮫川村	6	6
合計	30	30

●自己評価

①セミナー後の個別相談会や専門家派遣事業の活用を通じて、より高度な経営分析に繋げることができた。また、ローカルベンチマーク活用の勉強会を行ったり県連主催の研修会に参加したりして、職員の経営分析能力の向上を図りながら、個々の事業者の経営状況分析に取り組み、事業計画の策定やその後の実施支援に活用することができた。目標件数以上の実績を上げることができた。

②分析件数についてはほぼ目標を達成させることができたが、商工会のサポートが受けやすい「ネット de 記帳」は、利用者にとって経理・税務申告のための商工会サービスのひとつという印象が強い。なので、そこからさらに踏み込んで財務分析の結果を今後の経営に積極的に活かしてもらえるように、今後も職員の資質向上を図りながら支援業務に取り組みたい。

II-①

評価	A	B	C	D
	1人	7人	1人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を上回っていることは評価できるが、課題が残っているということで B 評価が多かった。

指導員 1 当たりで 5 件ということだが、目標値が低いのではないか。もう少し多くてもよいのでは。

申請時期になると残業が多くなるので、今後検討していくべきである。

II-②

評価	A	B	C	D
	0人	8人	1人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を上回っていることは評価できるが、課題が残っているということで B 評価が多かった。

システムを活用していない会員の洗い出しをして推進を図ってください。

経営支援のために「ネット de 記帳」の成功例もあるようなので普及に努めて下さい。

Ⅲ. 事業計画策定支援に関すること

計画の概要

- ①経営分析を行った事業者に対する事業計画の策定支援
- ②セミナーと個別相談会の実施をきっかけとした事業計画の策定支援
- ③経営革新計画の認定に向けた支援

●実施内容

- ①巡回訪問や窓口相談の際に、まずは「事業計画づくりの必要性を理解してもらう」ということを意識しながら事業者とのヒアリングを進めるようにした。その中で事業計画策定に積極的な事業者の掘り起こしを行い、その案件を経営支援会議(経営指導員で構成)の中で共有した。
- ②事業計画セミナー(9/22)、創業・第2創業セミナー(11/12, 19, 26, 12/10)、事業承継セミナー(12/13)を実施した。また、個別相談の機会を設けてより効果的な事業計画の策定支援に取り組んだ。特に、創業セミナーに関しては伴走型支援事業(補助事業)を活用し、セミナー全3回と個別相談会を1回開催し、事業・資金計画から創業の具体的な手続き、税務の知識まで掘り下げて実施した。
- ③経営革新計画の認定制度について事業者を紹介し、認定申請に挑戦する事業者の発掘に努めた。

●自己評価

①「事業計画策定の必要性を理解してもらいたい」という話の切り口は、事業者に抵抗を感じさせてしまう場合が多く、そこをうまく段階を踏んで対応する必要があり、掘り起こしの方法に課題が残った。支援会議で案件共有できた件数も2件と少なかった。

《事業計画策定セミナー・個別相談》

	目標	実績
セミナー(回)	1	1
参加者数(人)	30	11
個別相談(人)	10	4

②各セミナーとも目標参加人数を達成できず、広く掘り起こしをするという点では課題が残ったが、参加した事業者からは「経営計画を社員総会で発表できるようにしたい」、「創業に向けて自分なりに考えていた計画が、セミナーを経てその内容が不十分であることに気付いて勉強になった」等の声が聞けた。専門家と経営指導員による個別相談も相まって、事業計画のブラッシュアップや経営課題の解決に繋がった案件もあり、一定の成果を上げることができた。

《創業・第2創業セミナー 個別相談会》

	目標	実績
セミナー(回)	1	全3回
参加者数(人)	15	9
個別相談会	1	1
個別相談(人)	5	4

Ⅲ-①

評価	A	B	C	D
	0人	4人	5人	0人

(評価委員コメント欄)

実績が目標を下回っており、課題が残っているということでC評価が過半数を超えた。

事業計画づくりの必要性が理解されないのは、事業者の意識の低さか指導説明する力が欠けていると判断せざるを得ない。参加人数、個別相談人数が目標を下回っているため、今後は必要とする会員への掘り起こしと周知を十分に行ってほしい。

Ⅲ-②

評価	A	B	C	D
	0人	6人	3人	0人

(評価委員コメント欄)

参加者数が目標を下回っており、課題が残っているということでB評価が多かった。

参加者からの勉強になったとの声は良い結果であり意義深い。創業セミナー、事業承継セミナーは参加者を集めるのはどこも苦労している。事業承継セミナーに関してはテーマとニーズのミスマッチであったと言わざるを得ない。

## 実施内容と自己評価

創業・第2創業セミナーに関しては、中高年の参加者が多く、東白川地域で創業したいという若い世代の発掘は難しかった。また事業承継セミナーに関しては、県事業引継ぎ支援センターとタイアップして実施したが、従業員やM&A(合併や買収)による事業引継ぎを推進したいという国の方針に基づいた内容が中心であった。そのため、家族経営の小規模事業者にとってはテーマがミスマッチな印象もあった。地域性を考慮して、いずれのセミナーも参加対象者が少ない場合には、個別指導(専門家派遣等)のみで対応する方法も次年度以降検討したい。

①と②の取り組みで、事業計画策定を支援または支援中の事業者の件数は、目標30件に対し実績が29件と若干下回ったが、おおむね目標を達成することができた。また、事業計画を策定したほとんどの事業者について、持続化補助金やものづくり補助金、創業補助金、ふくしま農商工ファンド事業、経営力向上計画、省エネ補助金などの補助事業への申請支援に繋げることができた。

③経営革新計画の認定に向けた支援に関しては、申請支援に繋がる案件の掘り起しができない商工会が多かった。次年度以降の課題とし、巡回訪問やセミナー、景況・経営実態のアンケート調査の結果等を通じて、革新性の高い事業に取り組む事業者の把握に努め、申請支援に繋げたい。

### 《事業承継セミナー 個別相談会》

	目標	実績
セミナー(回)	1	1
参加者数(人)	15	9
個別相談会	1	1
個別相談(人)	5	4

### 《事業計画策定支援件数》

	目標	実績
埴町	10	10
棚倉町	10	10
矢祭町	5	3
鮫川村	5	6
合計	30	29

### 《経営革新計画策定支援件数》

	目標	実績
埴町	1	0
棚倉町	1	0
矢祭町	1	1
鮫川村	1	0
合計	4	1

## 評価委員による評価

小規模事業者向けの事業承継のテーマに修正することと、講師との事前打ち合わせをすることが重要である。担い手不足や継承支援、創業支援は今後ニーズが高まることが予想されることから諦めずに今後の取り組みに期待する。

### Ⅲ-③

評価	A	B	C	D
	0人	2人	7人	0人

### (評価委員コメント欄)

実績が目標を下回っており、課題が残っているということでCが多かった。

”経営革新計画を作りませんか?”と正面から持ち掛けても乗ってくる経営者は少ないだろう。

普段の支援から案件発掘、補助金を活用した事業者から経営革新につながりそうな案件を発掘するなどの工夫が必要である。

実施内容と自己評価

評価委員による評価

IV. 事業計画策定後の実施支援に関すること

計画の概要

- ①経営指導員の定期的なヒアリングによる支援
- ②経営に関する各種セミナーの開催

●実施内容

- ①事業計画を策定した事業者に対してその後の実行力を上げるために、3ヶ月に1回以上の巡回訪問や窓口対応でフォローアップを行った。(今後も継続してフォローアップを行う。)
- ②経営に関する各種セミナー・相談会を下記のとおり開催した。
  - ・労務対策セミナー(10/17)～会社を強くする雇用ルールと助成金セミナー～  
→県最低賃金相談センターとの共催で実施。
  - ・税務セミナー(1/17)～消費税軽減税率早わかりセミナー～
  - ・金融相談会「一日公庫」7月と12月に各商工会で実施。
  - ・経営セミナー(1/25)～小が大を超えるマーケティングの法則～

●自己評価

- ①持続化補助金13件、ものづくり補助金1件、県農商工ファンド事業2件、経営力向上計画1件、経営革新計画1件、雇用助成金関係3件、その他12件について、計画の進捗状況の確認や金融相談、専門家による継続指導や事業実績書類の作成支援などを行い、事業者の継続支援に繋げることができた。(全体の8割近くが国や県等の施策活用に絡む案件であった。)
- ②経営に関する各セミナーについて、テーマを厳選して企画したつもりであったが、労務対策と税務セミナーについては目標参加者数30名に対して参加者が少なく課題が残った。経営セミナーは講師に対する受講者の反応が良く、今後同講師によるセミナーのシリーズ化を検討したい。

《計画作成後のフォローアップ支援事業所数》

	目標	実績
埴町	10	11
棚倉町	10	10
矢祭町	5	6
鮫川村	5	6
合計	30	33

《セミナー開催件数》

	目標	実績	(人数)
労務対策セミナー	1	1	2名
税務関係セミナー	1	1	16名
金融個別相談会	8	8	19名
経営セミナー	1	1	26名
合計	11	11	

IV-①

評価	A	B	C	D
	2人	5人	2人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を上回っており A 評価も付いたが、課題が残っているということで B 評価が多かった。

補助金施策と職員の熱心な活用支援については高く評価されており、フォローアップはきちんと行っていると思う。協議会会報「経営支援レポート」で事業者の紹介をもっとしていくべき。

巡回訪問数をもっと多くしてもよいのではという意見もある。

IV-②

評価	A	B	C	D
	0人	6人	3人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を上回っているが、課題が残っているということで B 評価が多かった。

セミナーテーマによっては定員近くまで集客できているものもあるので、集客できなかったテーマは再考する必要がある。事前に講師とセミナー内容を打ち合わせして関心の高いテーマを盛り込む工夫をすること。

V. 需要動向調査に関すること

計画の概要

- ①各種統計調査等資料の活用による調査
- ②物産展出店時や観光商業・宿泊施設での需要動向調査
- ③産業サポート白河との情報交換の実施

●実施内容

- ①事業者が事業計画を策定する際に、国や県の各種統計調査資料を活用しながら、市場の動向や顧客ニーズを計画書に落とし込めるように支援した。
- ②地域の需要動向を把握するために下記のアンケート調査を実施した。
  - ア) 商品アンケート
 

物産展や店頭で商品を購入したお客様に対して、商品アンケートはがきを配布して、感想や意見の吸い上げを行った。
  - イ) 来訪者(観光客)及び地元客へのアンケート調査
 

東白川を訪れる観光客の特徴を明確にする項目や地域の商店街(小売店・飲食店)、宿泊施設の利用者(来訪者+地元客)の声を吸い上げる項目を盛り込んだアンケートを作成して道の駅などの商業観光施設等で聞き取り調査を実施した。調査報告書を作成し、ホームページで公表した。
- ③産業サポート白河の職員と情報交換をするとともに、同団体が主催する企業展示交流会(9/6)に参加して、東白川郡内から出展している企業を中心に需要動向に関する聞き取り調査を実施した。また、調査で得た情報を他の指導員と共有した。

●自己評価

- ①個々の経営指導員が必要に応じて統計調査資料を活用して経営計画作成の支援に繋げることができた。しかしながら、計画ではそれらの案件を支援会議等で他の経営指導員と共有するというのを盛り込んでいたが、その点については不十分であった。
- ②-ア)「参考になる回答をいただいた方には東白川の物産品をプレゼントします」という声掛けをして回収率が上がるように工夫した。そのことで、回収率は10%を超え、個々の事業者にとって商品に対する有益な意見や商売のモチベーションを高めるような感想を吸い上げることができ、今後の商品開発/改良に繋がることを期待できる。
- イ) 消費者への聞き取りによる調査を重視して、個々の事業者の商品開発やサービス向上に繋げるための意見・要望の吸い上げに努めたが、うまく引き出すことが難しかった。聞き取りに対する職員の意識付けやスキルアップが必要である。

V-①

	A	B	C	D
評価	0人	7人	2人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を上回っているが、課題が残っているということでB評価が多かった。

事業所は統計データの扱いに慣れていない事が多いので、今後も商工会が支援をしてほしい。

経営指導員同士で情報の共有化を図られたい。



## 実施内容と自己評価

③東白川郡内及び近郊の製造業7社に対してヒアリング調査を実施し、下請企業や協力企業とのマッチングの課題や要望、どういった企業が取引先を増やしているかなどの情報を得ることができた。出展企業の中には小規模製造業とのマッチングを希望しているところもあったが、大ロットに対応できない、人手不足で今請け負っている仕事以上の引き受けができない、新たな設備投資が難しいなど課題が多く、実際にマッチングに繋がる案件の発掘はできなかった。

### 《需要動向調査関係》

		目標	実績
商品及び来訪者アンケート件数(件)		100	102
産業サポート白河との情報交換(回)		2	1
企業展示交流会での調査(回)		1	1
情報提供事業者件数(件) ※合計は経営計画策定支援先の目標件数と同数	小売業	6	5
	飲食業	6	4
	宿泊業	6	1
	製造業	6	11
	建設業	3	2
	その他サービス業	3	6
	合計	30	29

## 評価委員による評価

### V-②

評価	A	B	C	D
	1人	6人	2人	0人

#### (評価委員コメント欄)

実績は目標を上回っているが、課題が残っているということでB評価が多かった。

物産展などで試食・アンケート調査をしてもよいのではないか。

アンケート対象商品を絞り込んで個社の支援を明確にした方がよい。今後も積極的に取り組んでほしい。

各町村の良いところ取り詰め合わせセットなど工夫が必要。

### V-③

評価	A	B	C	D
	1人	3人	5人	0人

#### (評価委員コメント欄)

実績は目標を若干下回っており、課題が残っているということでC評価が多かった。

ビジネスマッチングは発注側と受注側の情報開示が重要である。商工会が中心となって引き続き情報収集に当たってほしい。

産業サポート白河に東白川郡の事業所へ目を向けてもらうために、日頃からの情報提供をするようにしてほしい。

VI. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

計画の概要

- ①小規模事業者の物産販売への参加等支援
- ②小規模事業者の商談会への参加等支援
- ③IT活用支援

●実施内容

- ①首都圏での都市交流事業や物産セットの企画・PR・販売（埜）、福島美味しいもの食のフェア（棚倉）、やまつりもったいない市場や矢祭元気祭（矢祭）、うまいもの祭り・北区区民まつり・食育フェア（鮫川）等の物産販売あるいはイベントに参加する事業者の支援に取り組んだ。
- ②企業展示交流会の情報提供・斡旋を行った。また、福島美味商談会・日本橋ふくしま館リニューアルフェア（棚倉）、ふくしまFOODフェア・ふくしま大交流フェスタ（鮫川）での商談会に参加する事業者の支援に取り組んだ。
- ③事業者のホームページ作成やその活用を支援した。また、ITセミナー等の開催の情報があれば、参加斡旋支援を行った。

《①物産販売支援件数》

		目標	実績
埜 町	実施回数	2	10
	出店者数	5	5
	顧客獲得数	15	17
棚倉町	実施回数	2	1
	出店者数	5	1
	顧客獲得数	15	2
矢祭町	実施回数	2	2
	出店者数	3	1
	顧客獲得数	9	6
鮫川村	実施回数	2	4
	出店者数	3	4
	顧客獲得数	9	3

●自己評価

①物産販売支援の中で、V-②で述べた商品アンケートを実施し、購入者の声を吸い上げるとともに新規の顧客情報を収集できた。その他、出展ブースで使用するポスターなどのツール作成や試食販売支援等に取り組み、事業者の効果的なPRに繋げることができた。

※顧客獲得数の実績数は商品アンケート等で顧客情報を得た件数。棚倉町は食フェア時にアンケート調査を行っているが、県連経由のため未集計。

VI-①

評価	A	B	C	D
	0人	9人	0人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を若干下回っており、課題が残っているということで全員 B 評価だった。

各物産販売での各事業者の物産が PR できたことは評価する。

購入者の意見を吸い上げることをもっと多くしていくべきである。

各町村で物産販売 (PR) を行っているが、4 町村一緒にやってみるのはどうか。今後、商工会と連携しながら事業を進めていく必要がある。

実施内容と自己評価

②商談会への斡旋を行い、棚倉町と鮫川村では出展支援に繋げることができた。引き合いが増えている事業者もあり、今後の取引に繋がることが期待できる。また、埴町では商談会への出展に繋がる案件はなかったが、調査会社のデータを活用してターゲットを絞り込んで行った、ダイレクトメールによる企業マッチングを支援した案件では、その後11件の問い合わせがあり、内1件の商談成立に繋げることができた。

《②商談会出展支援数》

		目標	実績
埴 町	実施回数	2	0
	出展者数	4	0
	商談成立数	4	0
棚倉町	実施回数	2	2
	出展者数	4	1
	商談成立数	4	0
矢祭町	実施回数	2	0
	出展者数	2	0
	商談成立数	2	0
鮫川村	実施回数	2	2
	出展者数	2	2
	商談成立数	2	2

《③-1 IT活用支援数(BtoC)》

		目標	実績
埴 町	活用量数	4	2
	顧客獲得数	20	5
棚倉町	活用量数	4	3
	顧客獲得数	20	15
矢祭町	活用量数	2	0
	顧客獲得数	10	0
鮫川村	活用量数	2	5
	顧客獲得数	10	20

《③-2 IT活用支援数(BtoB)》

		目標	実績
埴 町	活用量数	4	1
	顧客獲得数	8	2
棚倉町	活用量数	4	1
	顧客獲得数	8	1
矢祭町	活用量数	2	0
	顧客獲得数	4	0
鮫川村	活用量数	2	5
	顧客獲得数	4	1

③自社ホームページの作成を支援したことで、目標には届かないまでも顧客獲得に繋がった案件があった。ITの活用に不慣れな事業者向けに、無料のホームページ作成ツール「SHIFT」を活用した作成支援を行い、IT活用への関心を高めてもらったことで、今後の積極活用に繋がることが期待できる。

評価委員による評価

VI-②

評価	A	B	C	D
	1人	7人	1人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を下回っており、課題が残っているということでB評価が多かった。

各町村で物産販売(PR)を行っているが、4町村一緒にやってみるのはどうか。今後、商工会と連携しながら事業を進めていく必要がある。

ターゲットを絞って行ったDMによる企業マッチングで11件の問い合わせ中、1件の相談成立は評価できる。

VI-③

評価	A	B	C	D
	0人	7人	2人	0人

(評価委員コメント欄)

実績は目標を上回った商工会もあったが、課題が残っているということでB評価が多かった。

今後も十分に活用を図られたい。少しずつ浸透していけるように引き続き支援をお願いします。

地域経済の活性化に資する取り組み

計画の概要

①地域経済活性化（観光物産振興）のためのプロジェクト委員会の実施

- ・観光プロモーションの展開
- ・東白川ブランド商品の提案と開発、販売支援

●実施内容

- ・「東白川観光と物産振興プロジェクト」の実施（県観光地づくりアドバイザー派遣事業）  
行政観光担当課、物産関係団体、商工事業者、商工会職員で組織する委員会を下記のとおり開催した。

第1回：9月26日（火） 第2回：12月20日（水） 第3回：2月28日（水）  
※第3回は予定

- ・平成28年度に作成した東白川観光ポスターを道の駅や会員事業所に掲示してPRした。また、町村主催の首都圏での物産展等で掲示してPRした。

●自己評価

- ・県の観光地づくりアドバイザー派遣事業を活用して、専門家のアドバイスを受けながら実施したことで、地域経済活性化に関わる地区内関係者との情報の共有化や意見交換を効果的に行うことができた。
- ・地域ブランドづくりにはやはり長い時間が必要であり、簡単ではないことを再認識できた。そのため、初年度からブランド商品の開発支援の実績を上げることはできなかったが、委員会で話し合われた成果を基に軌道修正しながら、次年度以降も継続して事業に取り組むことで、事業者の売上向上に直接的に繋がる体制を作っていきたい。
- ・ポスターを掲示したことによる具体的な効果を上げることは難しいが、物産展での話題作りや誘客促進に繋がっていることが期待できる。

《委員会の開催回数》

	目標	実績
委員会	3	3

《東白川ブランド商品開発支援件数》

	目標	実績
埴町	2	0
棚倉町	2	0
矢祭町	1	0
鮫川村	1	0
合計	6	0

地域経済の活性化に資する取り組み

評価	A	B	C	D
	0人	7人	2人	0人

(評価委員コメント欄)

委員会の開催実績は目標を達成しているが、地域ブランドづくりは今後も継続的な取り組みが必要であるということで B 評価が多かった。

今年度の実績はないということだが、地域ブランド商品を作るには時間を掛けて取組んでほしい。

地域力（産業と行政(観光協会)との連携をもっと深める）が不可欠で、商工会とも連携が必要ではないか。

## 実施内容と自己評価

### 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取り組み

#### 計画の概要

- ①他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等獲得のための情報交換に関すること
- ②経営指導員等の資質向上等に関すること

#### ●実施内容

##### ①支援ノウハウ等獲得のための情報交換

- ・ 専門家や金融機関、商工団体で構成するオールふくしま経営支援連絡協議会。(年各2回)
- ・ 地区内経営指導員で構成する経営支援会議。(年10回)
- ・ 県南ブロックの経営指導員と日本政策金融公庫担当者で構成するマル経協議会(年1回)
- ・ 税理士、社労士、中小企業診断士等の専門家との連携(随時)

##### ②資質向上に繋がる取り組み

- ・ 職員向けのローカルベンチマーク活用研修会の実施(年1回)
- ・ 福島県商工会連合会主催による経営指導員資質向上研修会への参加(年3回)
- ・ 全国連商工会連合会の経営戦略Web研修(年1回)
- ・ 当協議会で開催する経営支援会議(経営指導員)での案件共有によるノウハウ獲得(月1回)
- ・ マル協議会(日本政策金融公庫)による金融支援ノウハウ獲得(年1回)
- ・ 専門家との同伴巡回による経営分析ノウハウの獲得(案件ごとに随時)
- ・ 当協議会が行う業務管理会議(経営支援員)での案件共有による支援ノウハウ獲得(月1回)

#### ●自己評価

- ①他の支援機関や専門家、職員同士の連携を活発に図り、概ね目標どおり支援事業の円滑な実施に繋げることができた。次年度以降も積極的な連携を図って、事業者支援の基盤強化に繋がるように取り組みたい。
- ②概ね目標どおり取り組むことができたが、研修等で学んだ支援ツールの有効活用については、次年度でももう少し整理して、実践ツールとしてさらに定着するように取り組みたい。

業務支援会議の中で郡内経営支援員が作成する広報に事業者支援の事例を掲載した。その事例を作成する過程で経営指導員と支援員の間で支援案件を共有することができた。

## 評価委員による評価

### 支援力向上①に関する評価

	A	B	C	D
評価	2人	5人	2人	0人

#### (評価委員コメント欄)

おおむね計画通り実施できたとのことで B 評価が多かった。

今まで以上に支援機関との連携を密にして、取り組むべき課題を共有して、事業所への支援力向上を行っていただきたい。  
今後も情報交換を積極的に推進してほしい。

### 支援力向上②に関する評価

	A	B	C	D
評価	2人	6人	1人	0人

#### (評価委員コメント欄)

おおむね計画通り実施できたとのことで B が多かった。

今まで以上に支援機関との連携を密にして、事業所への支援力向上を、広域連携を活かしながら行ってほしい。  
広報誌は会員他、地域住民に商工会の各事業 PR や会員事業の支援にも繋がる大切な PR 手段である。担当者の編集力向上も大いに期待する。

## ま と め

- 経営発達支援計画に盛り込んだ初年度事業はほぼ計画通り実行され、数値的な目標も概ね達成できた項目が多かった。各調査事業や経営状況の分析結果を活用して、事業計画づくりの推進やその後のフォローアップに取り組んだことで、やる気のある事業者のスムーズな事業展開や補助金申請、更には売上向上に繋がる支援案件を増やすことができた。次年度以降も継続して取り組むことで、事業者の経営力向上が期待できる。
- 各種セミナーへの参加をきっかけに創業希望者の意識改革や経営者のモチベーション向上などが見られたが、参加者が少ないセミナーが多かったため開催方法や周知方法を再検討する必要がある。一方で、地域性もあり対象者が少ないテーマのセミナーは個別相談だけにするなどして、業務の効率化を検討する。
- 研修などで学んだ支援ツールやヒアリングの手法等を実践で十分に生かしきれない場面があったので、職員のさらなる資質向上が必要。
- 地域経済の活性化に繋げるための地域ブランド作りは、その方向性について委員会の参加者や専門家からさまざま意見が聞かれたため、それらを基に軌道修正しながら時間をかけて取り組む必要がある。
- 目標が達成できなかった項目や効果が不十分だった取り組みについては、評価委員会での検証結果や見直し案を基に改善し、次年度以降効果的に実施できるように取り組む。

## 評価委員長による総評

5年計画の初年度ということで手探りの状態であったかもしれないが、1年間の取り組みで問題点や課題も見つかったのではないかな。

来年度の実施に向けて反省すべき点は反省し、伸ばしていく点は伸ばしていくようにしていただきたい。

特に、セミナーを開催する場合は事業所のニーズとテーマのマッチングを行い、講師との事前打合せを行うなどの改善を求めたい。

4町村が一体となって地域経済が活性化していくように各商工会が連携してほしい。

### 経営発達支援計画 事業評価委員会名簿

- 委員長 芦田健一（芦田経営デザイン(株) 中小企業診断士）
- 委員 古橋 博（埴 町商工会長） 金澤祐介（埴町役場まち振興課長）  
立石 誠（棚倉町商工会長） 渡辺 守（棚倉町役場産業振興課長）  
高信一則（矢祭町商工会長） 高橋竜一（矢祭町役場事業課長）  
関根政雄（鮫川村商工会長） 村山義美（鮫川村役場農林商工課長）
- オブザーバー  
青柳 孝（福島県商工会連合会中通り広域指導センター主任主査）

### 事業評価委員会開催状況

日時：平成30年2月16日（金）15：30

場所：埴町商工会館 2階会議室

内容：平成29年度経営発達支援計画  
事業の実施報告と評価委員による評価

